

## 欧州自動車の燃費改善はスローダウン

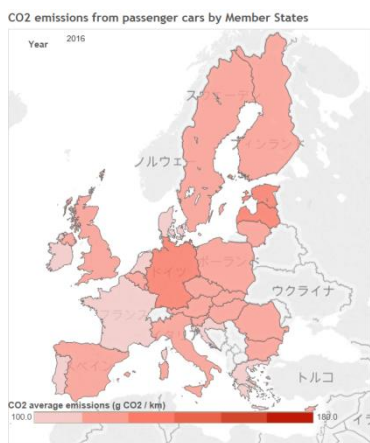
### ◆ 欧州環境庁、2016年の欧州の新車のCO<sub>2</sub>排出量改善は過去10年で最低と発表

欧州環境庁（EEA）は2017年4月、欧州連合（EU）で販売された新車について燃費に関する暫定データを発表した。EUでは燃費の概念として、CO<sub>2</sub>排出量が用いられ、16年も前年から改善し10年からは22gCO<sub>2</sub>/km以上（16%）減少した。ただ、年間改善幅として06年以降で最低だった。15年までに130gCO<sub>2</sub>/kmに抑えるという目標値は下回っているが、21年までの95gCO<sub>2</sub>/kmという目標達成のためには、今後5年間で燃費を大幅に改善する必要がある。

EUでの16年の新車登録台数は、1,470万台で、15年比約7%増加した。CO<sub>2</sub>排出量がガソリン車よりも少ないディーゼル車のシェアが50%を切り49.4%に低下しており、燃費改善がスローダウンした一因と考えられる。新車に占めるガソリン車は47%、その他が3.3%だった。その他のうち電気自動車は、15年の5.7万台から13%増加し、16年は6.4万台だった。

### ◆ 国別では平均で20g/km以上の差も、国の政策などでも左右される

国別にみると、燃費改善状況に違いもみられる。16年の新車の平均CO<sub>2</sub>排出量が最も減少したのはラトビア（△8.2g）、次いでチェコ共和国（△5.2g）だった。両国では軽量の小型車購入により低下につながったとみられる。ラトビアはそれでも128.9gCO<sub>2</sub>/kmと、15年のEU目標値をкаろうじてクリアしたところだ。



一方、デンマークは106.1gCO<sub>2</sub>/kmと目標値を大幅に下回っている。デンマークでは軽量車が好まれ、EU平均（1,388kg）よりも100kgは軽い。オランダは105.9gCO<sub>2</sub>/kmとCO<sub>2</sub>排出量は少ないが、今回、唯一排出量が15年比で4.7g増加している。同国は電気自動車先進国で、EU平均では1%にも満たないシェアが10%に達していたが、優遇措置が縮小されたため、6%に低下した影響もあるようだ。

【赤山英子】

出典：European Environment Agency

URL：<https://www.eea.europa.eu/highlights/fuel-efficiency-improvements-of-new>